

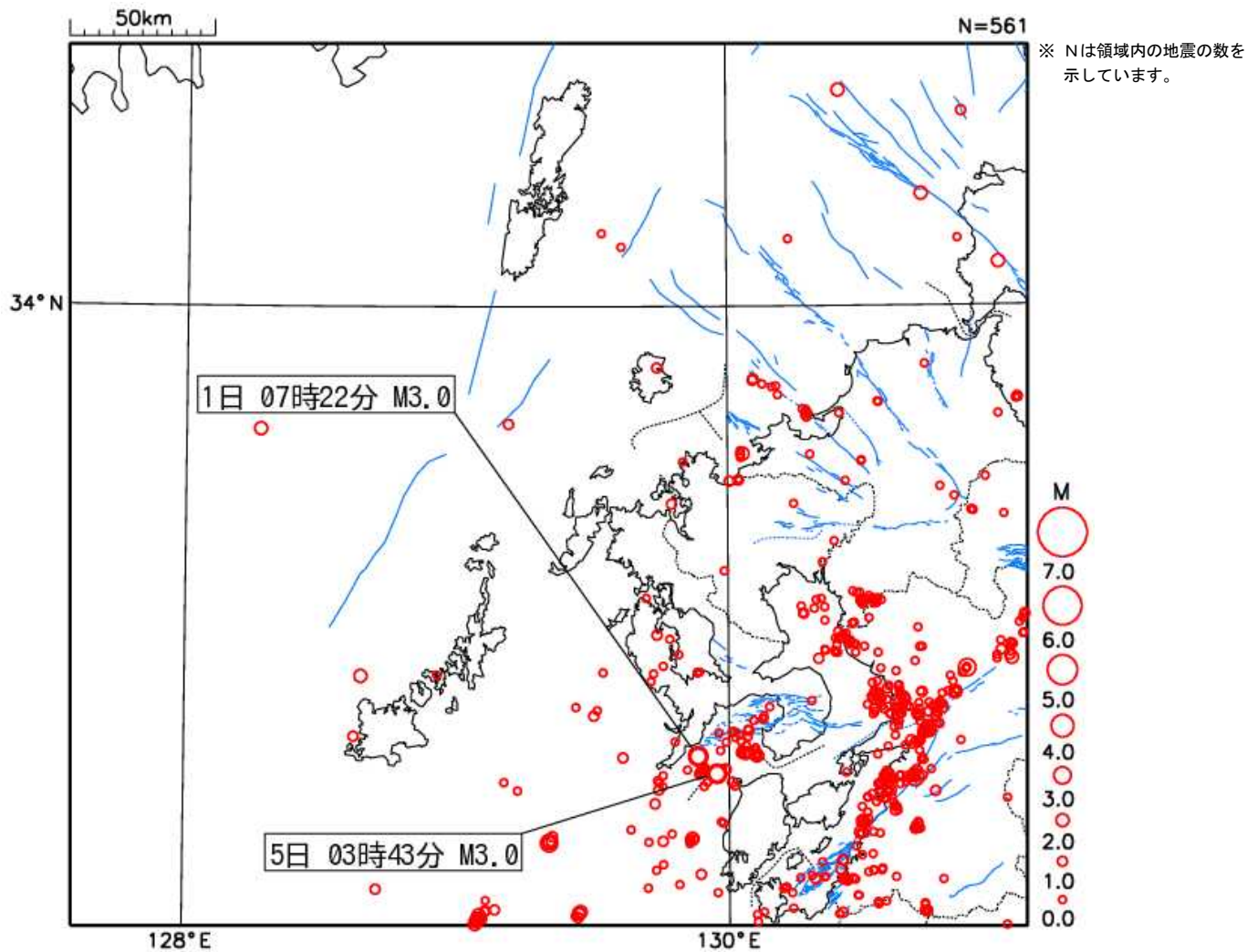
長崎県の地震活動概況 (2023年11月)

令和5年12月7日

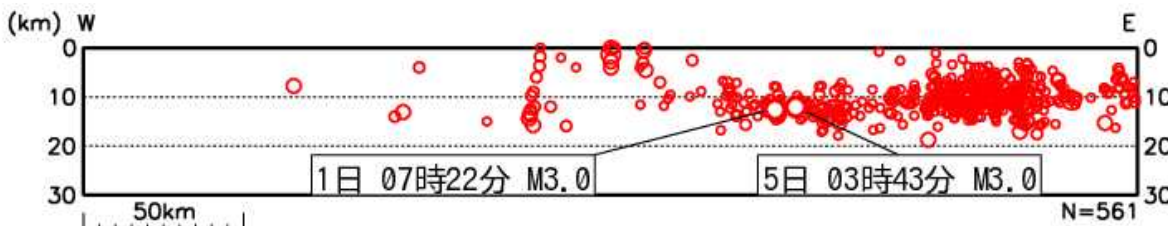
長崎地方気象台

地震活動の概況 (2023年11月)

11月に長崎県内で震度1以上を観測した地震は3回でした(震央分布図領域外の1回を含む。10月は0回)。詳細は2~3ページのとおりです。



震央分布図 (2023年11月1日~30日、深さ30km以浅、M≥0.0)
※図中の青色の線は、地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示しています。



断面図 (2023年11月1日~30日、深さ30km以浅、M≥0.0)
(震央分布図を南の方から見た断面図です)

※ 本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点(河原、熊野座)、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点(よしが浦温泉、飯田小学校)、米国大学間地震学研究連合(IRIS)の観測点(台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東)のデータを用いて作成しています。

橘湾・天草灘

1日07時22分に橘湾で発生したM3.0の地震（深さ13km）により、長崎市で震度1を観測しました（図1）。

5日03時43分に天草灘（情報発表に用いた震央地名は「橘湾」）で発生したM3.0の地震（深さ12km）により、長崎市で震度1を観測しました（図1）。

これらの地震の震源付近（図2領域a）では、2022年12月29日にM3.1の地震（深さ15km）が発生し、長崎市で震度1を観測しました（図2、図3）。

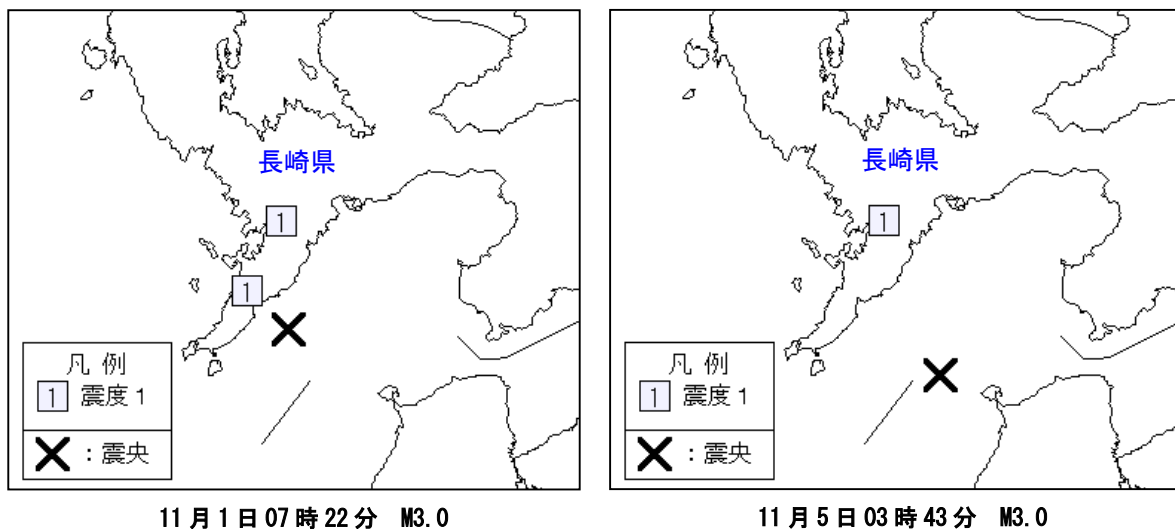


図1 震度分布図（観測点別）

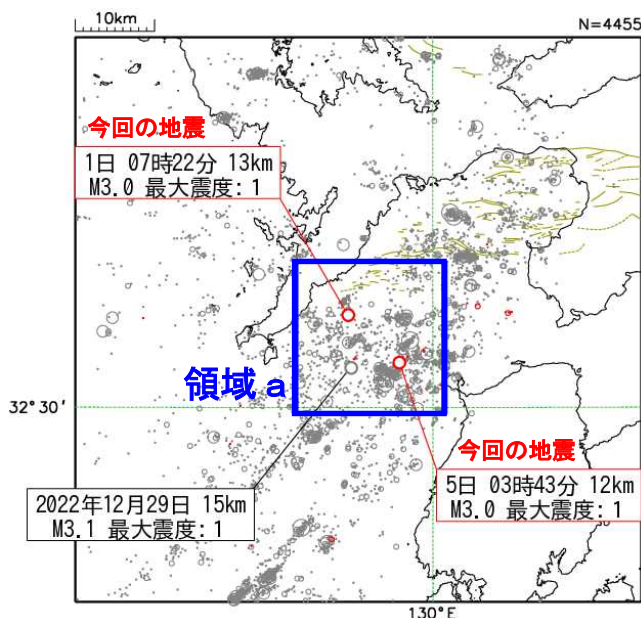


図2 震央分布図

(2000年10月1日～2023年11月30日 深さ0km～20km M \geq 1.0)

※2023年11月の地震を赤で表示。

※図中の茶色は地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示す。

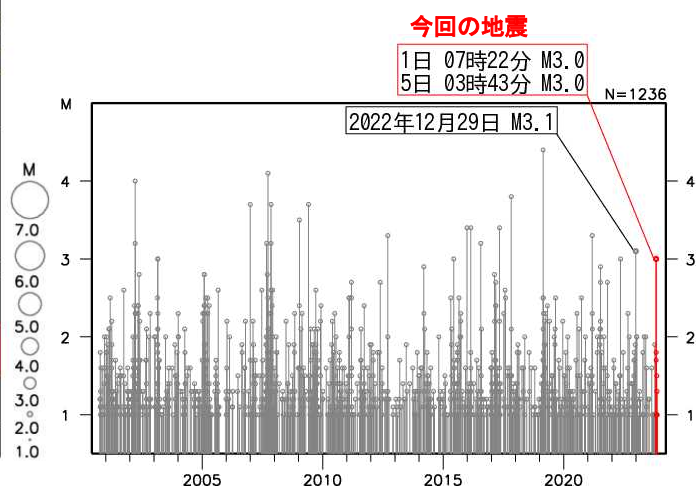
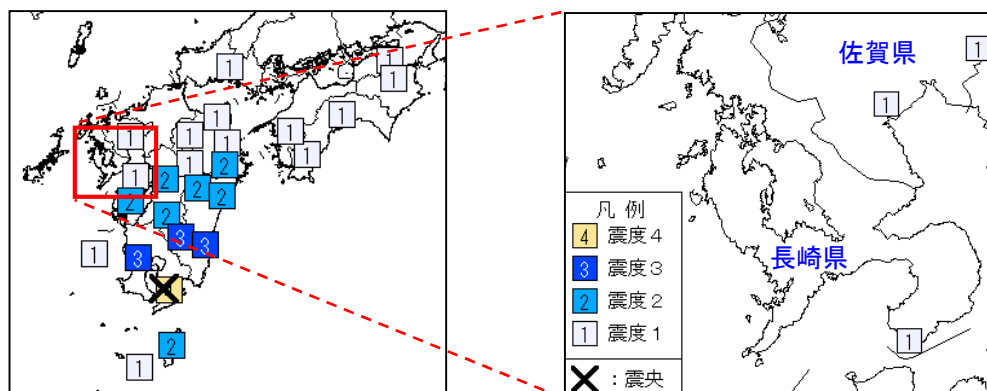


図3 図2領域a内の地震活動経過図

鹿児島湾(1頁震央分布図領域外)

11日05時50分に鹿児島湾(情報発表に用いた震央地名は「鹿児島県大隅地方」)で発生したM5.0の地震(深さ104km)により、鹿児島県の曾於(そお)市及び大崎町で震度4を観測したほか、九州地方、中国地方及び四国地方で震度3~1を観測しました。長崎県では、南島原市で震度1を観測しました(図4)。

今回の地震の震源付近(図6領域c)で発生した地震により、長崎県内で震度1以上を観測したのは、地方公共団体(長崎県)の震度データの活用を開始した2002年7月29日以降初めてです(図5~図7)。



11月11日05時50分 M5.0
図4 震度分布図(左:地域別、右:観測点別)

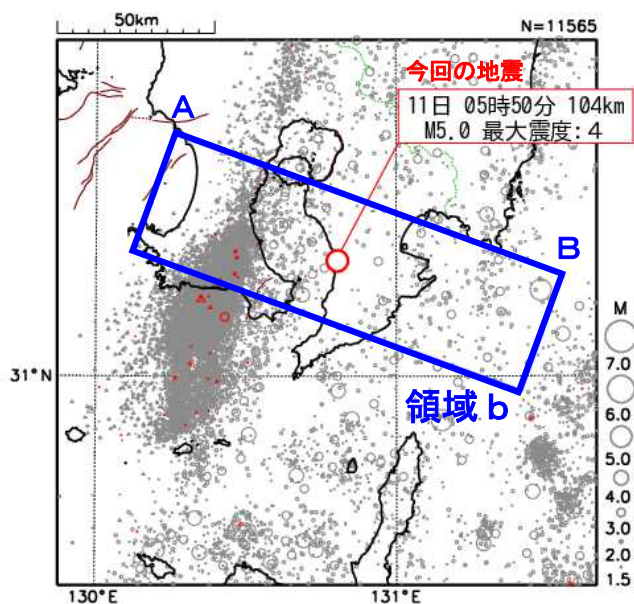


図5 震央分布図
(1997年10月1日~2022年11月30日 深さ40km~200km M≥1.5)
※2023年11月の地震を赤で表示

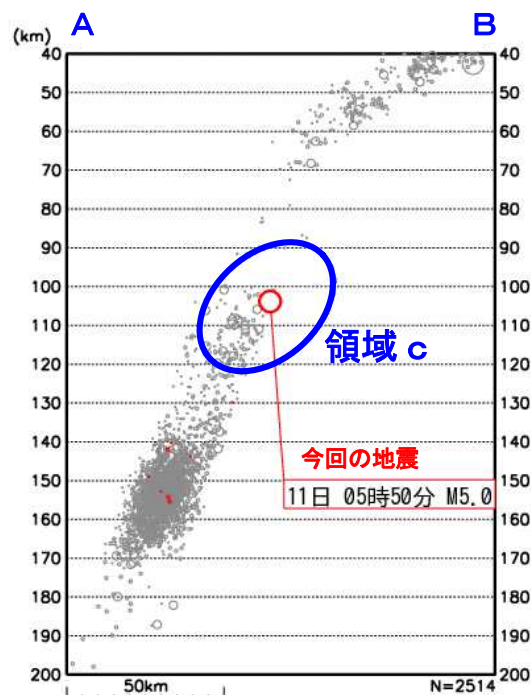


図6 図5領域b内の断面図(A-B投影)

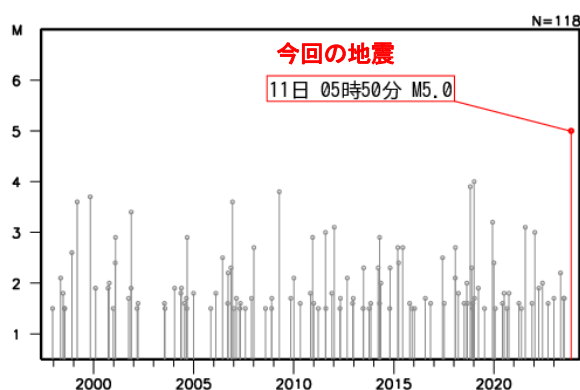


図7 図6領域c内の地震活動経過図

長崎県内で震度 1 以上を観測した地震の表 (11 月 1 日~30 日)

地震発生時刻 各地の震度	震央地名	北緯	東経	深さ	規模
2023 年 11 月 01 日 07 時 22 分 震度 1 : 長崎市元町*, 長崎市布巻町*	橘湾	32° 36.3' N	129° 53.1' E	13km	M3.0
2023 年 11 月 05 日 03 時 43 分 震度 1 : 長崎市元町*	天草灘	32° 33.0' N	129° 57.3' E	12km	M3.0
2023 年 11 月 11 日 05 時 50 分 震度 1 : 南島原市口之津町*	鹿兒島湾	31° 19.7' N	130° 48.2' E	104km	M5.0

注) 震源要素 (緯度・経度・深さ・M) は、暫定値であり、データは後日変更されることがあります。
*を付した地点は地方公共団体または国立研究開発法人防災科学技術研究所の震度観測点です。

令和5年度 巨大地震対策オンライン講演会を開催します

強い揺れ・ゆっくりとした大きな揺れ・津波に備える ～繰り返し発生する巨大地震への理解と防災・減災～

気象庁では、巨大地震の発生の可能性が平時より相対的に高まった時には、「南海トラフ地震臨時情報」や「北海道・三陸沖後発地震注意情報」を發表します。

また、このような巨大地震に伴う強い揺れや長周期地震動、津波に対して、緊急地震速報や津波警報といった予測情報を迅速に發表します。

関東大震災（大正関東地震）の発生から100年を迎える今年、これら地震津波情報を被害軽減のために最大限活用いただけるよう、**オンライン講演会**を開催します。

【日時】

- ライブ配信（Zoom）：令和5年12月16日（土）13時30分～16時00分
※全講座手話通訳付き

【講演内容】

- 第1講座「地震・津波の基礎知識と気象庁の情報」
東田 進也 気象庁地震火山部地震火山技術・調査課長
- 第2講座「津波災害の実態と減災に向けての取組」
今村 文彦 東北大学災害科学国際研究所教授
- 第3講座「長周期地震動のメカニズムと高層建築の対策」
久田 嘉章 工学院大学建築学部教授
- 第4講座「巨大地震・津波の被害想定と必要な備え・行動」
大内 伸 宮城県復興・危機管理部防災推進課長

【申込方法】

- ライブ配信はZoomを用いて行います。参加には事前登録が必要です。
 - 下記URLもしくはQRコードより必要事項を記入の上、お申し込みください。
- ※定員1000名（先着順）に達し次第締め切らせていただきます。



https://zoom.us/webinar/register/WN_xQ9tNmxFtX20e0T53eBF9w#/registration

【参加費】 無料

なお、各講演動画のアーカイブ配信を令和6年1月から1年程度行います。準備が出来次第、以下のWebページに案内を掲載しますので、ぜひご利用ください。

https://www.data.jma.go.jp/eqev/data/jishin_bosai/r5_lecture.html